

大腸癌研究会プロジェクト研究

「炎症性腸疾患合併消化管癌のデータベース作成と臨床病理学的研究」

第10回プロジェクトミーティング議事録

日時：2024年7月11日(木) 11時00分～11時30分

会場：名古屋コンベンションホール 会議室 408 およびWEBのハイブリッド開催

委員長：石原聡一郎

出席者（敬省略、50音順）

・現地参加

石丸 啓(愛媛大学)、岩佐陽介(奈良県立医科大学)、上田和毅(近畿大学)、大平 学(千葉大学)、小松更一(東京大学)、小森 康司(愛知県がんセンター病院)、小山文一(奈良県立医科大学)、佐伯泰慎(大腸肛門病センター高野病院)、佐藤 雄(東邦大学医療センター佐倉病院)、品川貴秀(東京大学)、白石壮宏(埼玉医科大学総合医療センター)、杉本晃祐(大腸肛門病センター高野病院)、田中信治(JA 尾道総合病院)、豊島 明(日本赤十字社医療センター)、中野麻恵(新潟大学)、久田かほり(久留米大学)、廣瀬裕一(防衛医科大学校病院)、松田圭二(同愛記念病院)、松山貴俊(埼玉医科大学総合医療センター)、水内祐介(九州大学)、室野浩司(東京大学)、山寺勝人(防衛医科大学校病院)、山本雄大(東京医科歯科大学)、吉川周作(土庫病院)、吉敷智和(杏林大学)、米村圭介(大腸肛門病センター高野病院)

・Zoom参加

新垣淳也(浦添総合病院)、池内浩基(兵庫医科大学)、大北喜基(三重大学)、小形典之(昭和大学横浜市北部病院)、斎藤 豊(国立がん研究センター中央病院)、清島 亮(慶應大学)、問山裕二(三重大学)、徳永卓哉(徳島大学)、中山佳子(信州大学)、那須克宏(千葉大学)、根津理一郎(大阪中央病院)、廣 純一郎(藤田医科大)、藤井佑介(大阪公立大学)、星野伸晃(京都大学)、山岡雄祐(静岡がんセンター)、山本 隆行(四日市羽津医療センター)

【審議事項】

① 後ろ向きデータベースの症例数の集積状況について石原より報告を行った。

UC：1249例(48施設)、CD：320例(39施設)

② 論文掲載状況について石原より報告を行った。

●主解析

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者：野口竜剛、石原聡一郎

Clinical Features and Oncological Outcomes of Intestinal Cancers Associated with Ulcerative Colitis and Crohn' s Disease

Publish: J Gastroenterol. 2023 Jan;58(1):14-24

●副次解析

○施設名：慶應義塾大学

担当者：岡林剛史先生、清島亮先生

The effect of biologics on the risk of advanced-stage IBD-associated intestinal cancer: A nationwide study.

Publish: Am J Gastroenterol 2023; 118(7): 1248-1255

○施設名：三重大学大学院医学系研究科 消化管・小児外科学

担当者：山本晃先生、奥川喜永先生、大北喜基先生、問山裕二先生

Oncological outcomes of Crohn' s disease-associated cancers focusing on disease behavior

Publish: Ann Gastroenterol Surg 2023; 7(4): 615-625

○施設名：京都大学医学部附属病院

担当者：星野伸晃先生、上野剛平先生、吉田真也先生、肥田侯矢先生

Postoperative complications and prognosis based on type of surgery in ulcerative colitis patients with colorectal cancer: a multicenter observational study of data from the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum

Publish: Ann Gastroenterol Surg 2023; 7(4): 626-636

○施設名：大阪大学 消化器外科

担当者：荻野崇之先生、関戸悠紀先生、水島恒和先生

Crohn' s disease associated anorectal cancer has a poor prognosis with high local recurrence: A Nationwide Japanese Study

Publish: Am J Gastroenterol. 2023 Sep 1;118(9):1626-1637.

○施設名：九州大学大学院医学研究院臨床・腫瘍外科

担当者：水内祐介先生

Prognostic impact of tumor location in stage II/III ulcerative colitis-associated colon cancer: Subgroup analysis of a nationwide multicenter retrospective study in Japan

→Publish: Br J Surg. 2024 Jan 3;111(1):znad386

○施設名：兵庫医科大学 消化器外科学講座 炎症性腸疾患外科

担当者：内野基先生、池内浩紀先生

Histological differentiation between sporadic and colitis-associated intestinal cancer in a large nationwide study: A propensity-score-matched analysis.

→published: J Gastroenterol Hepatol. 2024 May;39(5):893-901

○施設名：三重大学大学院医学系研究科 消化管・小児外科学

担当者：大北喜基先生、問山裕二先生

Possible poor prognosis in younger-onset Crohn's disease-associated anorectal cancer: a subanalysis of the Nationwide Japanese Study

→published: Ann Gastroenterol Surg. 2024; 00: 1-11.

③ 進行中の副次解析について紹介、進捗を確認した。

○施設名：東京女子医科大学

担当者：谷公孝先生、板橋道朗先生

テーマ：Colitic cancer 症例に対する腹腔鏡手術の有用性

○施設名：昭和大学横浜市北部病院消化器センター

担当者：小形典之先生、石田文生先生

テーマ：IBD 関連腫瘍に対する内視鏡治療の現状

→論文作成中

○施設名：東海大学

担当者：山本聖一郎先生

テーマ：UC 癌化症例における病悩期間による特徴の違いの解析

○施設名：帝京大学 外科

担当者：松田圭二先生

テーマ：潰瘍性大腸炎関連癌における術後補助化学療法の現状と成績を明らかにする

→論文作成中

○施設名：東北労災病院 大腸肛門外科

担当者：高橋賢一先生

テーマ：クローン病関連小腸癌の臨床的特徴についての検討

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者：小松更一

テーマ：炎症性腸疾患合併/dysplasia における臨床病理学的特徴の時代的変遷に関する検討

→AJG reject。 BJS へ投稿準備中。

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者名：品川貴秀

テーマ：潰瘍性大腸炎関連若年者大腸癌の臨床病理学的検討

→論文作成中

○施設名：慶応義塾大学

担当者名：岡林剛史先生

テーマ：背景の大腸炎が UCAN の予後に与える影響について

→論文作成中

○施設名：慶応義塾大学

担当者名：清島 亮先生、岡林剛史先生

テーマ：IBD 関連大腸癌に対する大腸全摘術の長期予後への影響

→投稿済み。査読中。

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者：小松更一

PSC 合併 UC 患者における UCAN の臨床病理学的特徴に関する研究

→UEG week 2024 e-poster 採択。CGH へ投稿準備中。

○九州大学大学院医学研究院臨床・腫瘍外科：水内祐介先生

テーマ：Ulcerative colitis-associated cancer における術前検査による cT ステージの予後への影響

→論文作成済み 回覧予定。

○九州大学大学院医学研究院臨床・腫瘍外科：永吉絹子先生

テーマ：Prognostic value of Surgical treatment in Elderly patients with ulcerative colitis-associated colorectal cancer; a Subanalysis of Nationwide Japanese Multicenter Study

→投稿済み。査読中。

④ 前向きデータベースについて、石原より集積状況について報告を行った。

データ集積状況：UC 228 例、CD 51 例（2024 年 7 月 9 日時点の集積数）

⑤ 今後の予定、展望

- ・副次解析は随時募集している。

- ・前向きデータベースは継続していく。

- ・プロジェクト研究としては 2024 年 7 月に終了し、2025 年 1 月の研究会で総括を発表予定。データベースと倫理の維持は炎症性腸疾患関連消化管腫瘍診療ガイドライン委員会での継続を予定している。

- ・データベースの解析に加えて、切除検体の病理組織学的検討についても現在協議中である。

- ・「若年性大腸癌の全国データベース構築と臨床病理学的特徴および治療効果の検討(後ろ向き観察研究)」に、当プロジェクト研究のデータベースを活用する可能性がある。

質疑：

九州大学 水内先生「2つのプロジェクト研究に重複して症例登録される可能性があるのではないか」

→重複がないように調整していく。

2024 年 7 月 11 日

石原聡一郎

事務局：東京大学腫瘍外科

品川貴秀、野口竜剛、津島辰也、小松更一、船越薫子